

保護者・地域等学校関係者の皆様への教育長メッセージ ⑥
子どもたちの夢をのぞく

コロナウイルスへの対応が明らかに変わってきました。第二波のピークは過ぎたかもしれません。緊急事態宣言も解除され、3密を避け、消毒などに気をつけながら、次第に通常の生活に戻ろうとしています。旅行もイベントも外食することも少しずつ可能となってきました。この夏はさらに暑さ対策も必要でした。雨傘を日傘代わりにしたり、ランドセルや学生カバンなどの持ち物の約束をゆるめたり、自転車通学の範囲を広げたり、各学校で様々な工夫をして頂きました。それでもコロナの恐怖は続き、いつ、どこでも、どんな感染が起きても不思議でない状態が続いています。

「今年度は宿泊を伴う修学旅行・野外活動については、計画を中止・変更する」という子どもたちにとって、大変ショッキングな決定をしました。まさに断腸の思いで決断をしました。校長先生方は最後まで皆さんと一緒にいく方法を考えてくれました。何とか行けないものか。この行事のため特別委員会も立ち上げました。結局「①行事の直前になって感染が分かり、全員が行けなくなった時」「②旅行先で感染が分かり、家に帰れない人が出た時」難しい対応となり、子どもたちに深い傷を与えることになるという結論に達し、泊を伴う行事は中止・変更となりました。市教委も市の校長会も、3月以来ずっとつらぬいてきた「命を最優先し、安心安全な学校行事」にしていくことになりました。今、それぞれの学校で日帰りの旅行や活動が検討されています。子どもたちにとって思い出に残る楽しい行事にしていきたいと思います。

ある新聞の尾張版に「小さな日記」という欄があります。9月6日から津島西小の子どもたちの作文が載っています。「子どもたちの将来の夢」がテーマです。最近の子どもたちは将来にどんな夢を持っているのか。毎日楽しく読んでいます。「医者・歴史家・科学者・スポーツ選手・お笑い芸人…」「皆に貢献できる人になりたい。役立つ人になりたい」という文を読んで、子どもたちが真っすぐしかも優しく育っていることに安心しました。私たちも子どもたちの思いと向き合う時間を大切にしたいと思います。テレビを見ている時、読んだ本の感想を聞くとき、ゲームが終わった後、どうか子どもたちの思いを聞いて下さい。考えたことを話し合う時間を大切にしたいと思います。

群れ立ちて風に揺れるやミニ向日葵
秋暑し土俵に匂う汗と土

令和2年9月17日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視